




防災部会視察研修の様子

善光寺地震に学ぶ 城東地区防災部会に参加して

8月21日、防災部会では1847年に発生した善光寺地震について長野市博物館学芸員島山幸司さんから解説を受け、今なお残る隆起跡、犀川を堰き止めた土砂崩れ、崩壊し大被害をもたらした跡など案内していただきました。善光寺地震は家屋倒壊(圧死)大火災(焼死)、二次災害の大水害(水死)を含め8千名から1万2千名の死者が出、長野県最大の大災害と言われています。



城東

● 城東地区 ●
1891世帯
男 1746人
女 1890人
合計 3636人
H 30.9.1 現在

善光寺地震は3月8日に発生したマグネチユード7.4(兵庫県南部地震と同じ規模)の直下型地震で、震源地は長野市浅川地区と推定されています。

死者の数については、丁度善光寺では7年に一度の御開帳が始まっており、近隣ばかりではなく、全国各地から参拝者が集まっていた為、推定で、正確に把握ができておりません。

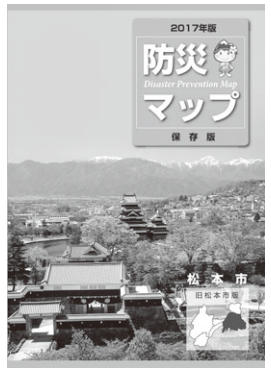
当時の山崩れの様相については松代藩主松平幸寛が藩内を巡視した際に、藩のお抱え絵師青木雪卿が描いた67枚の絵図の中に震災地の状況が描かれ、地質学専門の島山さんは「この絵図はたいへん精巧に描かれ、地震が発生した山崩れの状況を知ることができ、極めて役に立つ資料です」としてプロジェクトで数枚を案内してくれました。

特に犀川が土砂崩れにより堰き止められ、後日決壊(上記写真)し、大被害を起こした現場について詳しい説明があり、はっきりと確認できました。

本年7月の広島、岡山、愛媛県等広域豪雨は240名にも及ぶ死者を出し、想定を超えた天候異変は甚大な災害をもたらす、安全と思われている地域でもいつ災害に見舞われるかわかりません。参加者は帰りのバスの中で、「城東地区の真ん中を女鳥羽川が流れ、水害が起きないとは言えない。」と心配し、一様に話していました。城東地区は今まで大きな災害もない地区で安穩として暮らしていますが、地震水害が起こった時被害を減らすことが出来るよう、日々の備えは十分したいものです。(増 田)

活用してありますか？ 『松本市防災マップ』

突然ですが、2つの問いかけをします。
①松本市が100年に1回の確率の豪雨に見舞われた場合、洪水であなたの家は浸水するのでしょうか？
②松本市で大地震が発生した場合、あなたの家やその周辺ではどのような事態が発生するのでしょうか？
①について…城東地区内で最大2mぐらいの浸水が想定される場所や1mぐらいの浸水が想定される場所があります。50cmぐらいまでの浸水が想定される場所は、かなり広範囲にあります。
②について…城東地区内で、場所により、地震に対する危険度に大きな差があるようです。古い家屋が密集している場所では、倒壊の危険性が高く、火災による延焼も危惧されます。狭い道は、倒壊物が避難経路を塞ぎ、消火活動をも妨げるかも知れません。地盤の強度も様々で、弱い場所では、被害の拡大が心配されます。



▶ 防災マップ

答えに詰まった方や心配になった方は、『松本市防災マップ』をご覧ください。そこには、『災害への備え』、『避難の心得』、『防災情報の利用』、『防災マップ』など様々な情報が記載されています。
『松本市防災マップ』は、項目ごとに解りやすく整理されています。「洪水、土砂災害ハザードマップ」も掲載されていますので、各地区や城東地区で想定される浸水状況を知ることが出来ます。また、「災害危険度判定」により、大地震発生時のあなたの家や周辺の危険度を知ることが出来ます。「防災マップ(地震編)」には、活断層の位置が記載されており、城東地区近辺にも活断層があります。
近年日本各地で大地震や集中豪雨などによる災害が増加しています。自然災害に対して事前に私たちが出来ることは、「地震や風水害への備え」です。そして、自宅や周辺、指定避難所、通勤・通学経路、買い物に行く経路などで、災害時に想定される事態や危険個所の有無を確認しておくことも大切です。
『松本市防災マップ』には、防災に関する情報やヒントがいっぱい詰まっています。災害が発生する前に活用することを、強くお勧めします。(青 木)

『防災力アップ』講座の開催

熊本地震の現地を視察した危機管理課職員の方を講師に迎え7月21日「防災力アップ講座」が城東地区福祉ひろばで開催されました。

始めに松本市の危機管理部は、「県内7市町村では唯一の部組織であり、具体的な業務は、自然災害対策、防災教育、自主防災活動支援など十項目にわたり文字通り危機を把握し生命を守る重要な部署、究極の目標は、死なない！死なせない！を合言葉に活動しています。」と紹介。



「防災力アップ講座」の様子

◇水害については、近年各地で予測を遥かに超えた異常気

象が続いて豪雨が被害をもたらしています。

現在、私たちは地震を止めたり、自然気象を変更させることはできませんが、被害を減らすことは可能です。減災の為の自助・共助・公助について確認します。

1自助・自分の身を守る。住宅の耐震化、家具の転倒防止備蓄など

2共助・地域で助け合う自主防災活動など

3公助・自衛隊・警察・消防・市町村等の救助、支援活動などがあります。

それでは身近な個人個人・家庭でできる自助についてのポイントを記しますので参考に見ましよう。

- ①日頃からの備え、安全の確保。(最悪を想定)
- ②自宅や地域の被害、家族の状況を想像してみる。
- ③自宅内外の危険箇所や安全性の確認、修理や補強。
- ④「松本市防災マップ」などを参考に、避難先や避難経路の確認。(訓練)
- ⑤家族間の連絡方法の確認や、災害伝言ダイヤルなどの使い方を知る。
- ⑥飲料水・食料・燃料・生活必需品の備蓄。

◇水害については、近年各地で予測を遥かに超えた異常気

- ⑦避難の心得・自宅の火元・プロパンガスの元栓・ブレーカーを切るなどの確認。(逃げる前に余裕があれば)
- ⑧避難経路は普段から家族、隣近所と話し合い決めて歩いてみる。

【情報の取得】

特に夜間に情報がないと非常に不安になります。正しい公共情報を入手して行動しましょう。

※松本市は広報車・防災無線などを駆使して情報を提供します。

■できることから実行し、たった一つの「命」を守りましよう。(藤 極)

元町中町会の活動について



体育祭：ラダーゲッター

当町会では毎年、公民館活動の一環として町内体育祭を行ってしています。参加者は高齢

者が多いので、室内競技を取り入れて子供達と一緒に和気あいあいと、コミュニケーションや健康増進を楽しみながら実施しています。昼食はスタッフの皆さんの心のこもった美味しいカレーを作ってもらい、皆さんに喜んでいただいています。



ふれあい会食会

民生児童委員と健康づくり推進員が中心になり、「ふれあい健康教室」と「お茶でも飲むじゃん会」をそれぞれ年6回行っています。簡単な体操やゲームをなごやかに楽しんでいます。又「ふれあい会食会」は年に3回行っていて、一人暮らしの高齢者や敬老会の該当者だけでなく、町会の皆さんに声をかけて、大勢の仲間と世間話をしながら楽しんでいきます。

防災については、万が一の地震災害に備え、避難訓練を毎年8月最終日曜日に、60

80名の皆さんに参加していただき実施しています。以前避難所へ移動した時、高齢者に途中リタイアが続出したため、対応として車イス10台を準備しました。役員間の連絡がとれないという問題については、無線機を10台購入することで解決をはかり、順次必要ものは準備しています。必需品をリュック等につめ集める事については定着してきています。

今年には昨年行った徒手搬送訓練が訓練中の火災で中止になったので、本郷消防署山辺出張所にお願ひし、再度実施することとしました。



避難訓練：公民館までけが人の搬送

人と人とのつながり、コミュニケーションを大切に、皆さんが安心して楽しく生活できる様に町会員・役員が一丸となって知恵を絞っています。(餘 田)